

J Aきたみらいの担当者で北海道あるいは、中間管理機構などの関係機関との協議をはじめたところであります。現段階では事業概要を示して、補助事業に合致するかどうかの判断あるいは補助制度の詳細など情報提供を受けながら事業内容の検討を進めているところであります。

支援策でございますが、法人設立にあたっての目標、目指すもの、そして労働力の確保をどう考えているのか、明らかになっていないものが多々あり、支援策についてまだお答えできる状況にはありません。かなりハードルが高いと考えています。国内の農業の先行きが非常に懸念される新たな時代の中で、農業のあり方が今、問われると思います。置戸の農業を守って持続可能な農業にするためにも、この拓実における動きが事例の一つになってほしいと期待しているところであります。置戸町も厳しい財政状況にあります。引き続きできるだけの支援はしてまいります。

勝山温泉ゆうゆの集客策について

町長 提案を検討いただくよう伝えたい



前田 篤議員

Q まもなくリニューアルオープン1周年を迎える「勝山温泉ゆうゆ」について、さらに入浴客が増えるように提言をしたいと思えます。

1つ目は置戸南ヶ丘スキー場の一日券の提示により入浴料を割引くというものですが、これによりスキー場の来場者も増え、共存、共栄が図られると思うのですがいかがでしょうか。

2つ目は駐車場のことですが、時折大型トラックの駐車が見受けられます。元々大型車の駐車を想定していないことから新たな入り口取付道路新設や、勝山ふれあい農園の一部を駐車場化してはいかがでしょうか、町長の考えを伺います。

A 早いものでリニューアルオープンして1周年を迎えますが、町内外から多くの皆様に足を運んでいただき、1月8日には1年目の目標入浴客、6万人を達成いたしました。ご利用いただいた方々に感謝申し上げると共に、

経営にあたった一般社団法人の役員、関係者、職員の努力に敬意を表したいと思えます。さてご質問の集客策のことですが、「ゆうゆ」では、入浴やレストラン利用のスタンブサービス、JAF会員、あるいはSDカード所有者、消防団応援の店等の特典をはじめとして多くの工夫を凝らし、集客対策を行っております。またオケクラフトの商品展示を行い、双方の売上効果に期待していますし、町内のイベントでの入浴券配布などで効果を上げているようであります。

お話のスキー場との連携ですが、社会教育課あるいは福祉施設等の公共施設ばかりではなく、商工会などを通じて商店との連携など町全体としての集客増を考えることが大切ではないかと思えます。「ゆうゆ」経営者にもそうした点を念頭に置きながら、提案について検討いただくようお願いしたいと思います。

次に大型車向けの駐車場の整備ですが、新たな入

口を設けるには道路の幅員が狭く、高低差もあることから物理的に難しいと判断しているところですが、また勝山ふれあい農園側については、特定農地貸付に関する農地法の縛りがあり、手続きの問題で不可能ではないとしても、現状での「ゆうゆ」周辺の大型車駐車場確保は、事業費等も含め大変難しいと思えます。

再Q もう1つの提案ですが、スタンブカードの裏に書かれた、住所、氏名を利用して1ヶ月か2ヶ月に一度、抽選会を開き、もう一度お客様に喜んでいただけるようにしてはいかがでしょうか。

A 利用者の方々にはメッセージを送るという意図に、「ゆうゆ」の方に申し上げていきたいと思えます。



岩藤孝一議員

置戸高校の今後について

教育長 これからも守り育てます

Q 置戸高校の今年度の高校入試出願状況を新聞等で見まして希望者が10名、その人数を確認した時に大変驚きました。福祉科というこ

とで20名以下が2年続いても閉科とか学校自体が廃校になることはない聞いていますので安堵はしていますが、10名という人数を聞いた時に、早々悠長にしてもいられないという気がしました。

置戸高校対策協議会を中心に置戸高校に何とか生徒を増やそうということで、29年度は1700万円の金額で学生のため、あるいは学校のためいろいろな対策を講じてきましたが、それ自体が本当に功を奏しているのか、今回10名ということ踏まえ、今後どのように対応していくのか考えを伺います。

A 置戸高校ですが、授業参観をして生徒全員が本当に張りつめた緊張感の中で授業に集中している姿、それから卒業式往々に出席させていただくと、卒業生全員が

涙をこらえきれず先生方への感謝の気持ちを込めて、この学校で学ぶことが出来たということを中心に伝える姿を見て本当に良い学校なのだと思います。また、介護福祉士国家試験の結果については、ご存じのとおり12年連続95%以上という全国的に見ても突出した数字を出していますし、昨年3月は全員合格ということでも本当に生徒は頑張っているなということを感じると同時に、生徒を支える先生方の一丸となった学校経営に敬意と感謝をするところです。

それで置戸高校に対する支援について、大きく3点に分けて答えさせていただきます。最初に、経済的負担軽減についてですが、実習着の助成、進路指導対策支援、道外先進福祉系学校視察研修助成、通学バス運賃助成、寮費助成などをを行っています。これらの支援については、志願者を増やすという視点もありますが、それ以上に全国的な問題になっていますが、経済的な理由

での中途退学者が増えているという状況があります。置戸高校に入学してくる生徒も、経済的には厳しい生徒が少なくない聞いています。学び続けること、学びたいと願っている生徒、経済的な理由で高校を中退させてはならないと強く思っています。また、町内での介護福祉士確保に繋げるための、福祉の夢サポーター奨学金制度ですが、今後、さらに本町でのニーズは高まっていくと考えていますので継続していきたいと考えています。

次に、要請活動ですが、置戸高校福祉科の順次性に関し、国、道への要請活動を実施しています。要請の指示については、1点目は教育課程が非常に難しさを増している、生徒個々へのきめ細かな指導のために30人学級の要請。2点目は、福祉教育の充実のため教員の適正な配置。3点目は、教育環境整備の対応です。また、介護ニーズが高まる中、置戸高校における福祉教育の役割や人材育成の必要性を訴

えています。

最後に一番大きな課題の入学志願者を増やすための取り組みですが、置戸高校福祉科をもっと有名にし隊を編成し、毎年7月、8月にかけて道内80校程の中学校を訪問してPR活動をしています。また、新聞などへの広告、北見と札幌での学校説明会における置戸町の支援対策の丁寧な説明など、平成29年度の入学者のうち7割を超える生徒が管外の出身者となっており、これらの活動が一定の成果を出していると判断しています。地元や北見市内からの生徒を増やすための具体的な支援策について、今後、支援対策協議会において、より効果的な方策を考えていかなければならないと思っています。

高齢化社会を支える介護福祉士を輩出する置戸高校の社会的使命は極めて大きく、無くしてはならない学校、守り育てていかなければならない学校と考えています。

再Q 置戸高校存続のために本当は何をしなければならぬのか。例えば今回補正で300万円が残りましたが、その300万円で何かできたのではないか、このことについて、対策協議会の中で話し合いがされているのか伺います。

A 今回の支援策の中で、まず増やすことを考える時に、考えられるPRの方法ですが、もつと絞ってPRしていく必要があると思っています。

町からの支援によって経済的負担が軽減されることもありますが、一番の置戸高校の魅力は、介護福祉士の国家試験が取得できる最短ルート、3年で取得できること。掛かる経済的負担も少ないことも大きなPRポイントだと思います。また、置戸高校を卒業後、介護福祉士の道だけではなく、他の道も大きくPRしていかなければならないと思っています。

自主防災組織の体制の支援を

町長 各自治会に自助、共助の意識で組織体制を



石井伸二議員

Q 平成30年度の町政執行方針に述べられていますが、今回各自治会、公共施設等に防災行政無線戸別受信機が設置され、今月中にも試験が始まるようであります。

この受信機の目的は、何と言っても災害に際し如何に速やかに情報を発信し、避難行動が出来るのかということだと思います。避難の際に支援を必要としている要支援者の情報が単位自治会における個人情報、プライバシーをどう守るかということが課題となつて、なかなか重い腰を上げることが出来ないのではと思っています。

町政執行方針にもあります「安心カード事業」で、そこに記載されている情報を本人または、親族の同意を得ながら、各自治会等においても把握し、要援護者の把握、助け合い等のネットワーク構築に繋げていくのが近道だと思います。各自治会における高齢化に伴う支援者となる人材が少ないのではと思います。若手と言われる方々がいたとし

ても、消防団員だったり、また町職員であったり、肝心な時にあてにならないと思います。

ある程度の広範囲での組織作り、行政との連携は不可欠であります。今後、置戸地区における自主防災組織づくりをどのよう考えているのか、また、そのようなサポート、支援をする人材をどう確保されるのか町長の考えを伺いたしたいと思います。

A 最近全国で頻発している記録的な大雨、あるいは大雪、これらの自然災害のみならず、昨年の8月には朝鮮からのミサイル発射が北海道上空を通過する事態も発生するなど、万が一の事態に備えた防災対策が極めて重要であることから、本年度防災無線のデジタル化と各公共施設や自治会に戸別受信機を設置しました。人命にかかる災害等が予想される場合に発令される避難準備、避難勧告、避難指示やアラートについていち早く確実に周知できる

よう準備を進めているところがあります。

現在、勝山、秋田、境野地区で設立されておりまして、置戸地区では設立の呼びかけをしておりますが、進まない状況にあるのはご案内のとおりであります。

災害発生の状況によっては、役場や消防などが早期に適切な対策を取ることが難しい場合も考えられますので、日頃から自分達の地域は、住民自らで守るといふ、一般的に言われる自助、共助の意識が重要であり、自治会や地域単位での自主防災組織の体制づくりが何よりも重要であり、かつ有効な役割を担うであろうと考えているところです。

置戸地区においては一つの自治会で組織をするのか、あるいは複数の自治会で広範囲に組織するのかなど課題も多くあるかと思っております。本年4月には、役場組織機構の見直しを行いました総務課に防災係を配置する予定であります。自治会などから要請があれば防災担当者が出向

きまして、自主防衛組織の設立に向けての、連携、あるいは協力、助言をしてまいりたいと考えております。

要支援者情報の共有であります。一人暮らし高齢者に対する安心カードの設置事業は平成29年度では110人が登録しています。このカードの活用について担当の福祉部門や、民生委員と防災担当者が連携して、本人の意向に反しない範囲での共有に努めてまいりたいと思っております。

今後も自主防災組織の育成や、あるいは設置について、防災訓練や防災講和の実施による啓発、あるいは自治連とも協議を進めながら、少しでも早く置戸町全域に自主防災組織が設置されるように努めてまいります。

再Q 自主防災組織を作る際、情報をもとに組織を作るのか、先に組織立てをして、その後に要支援者等の情報がつくのかというようなお話になるのかと思います。緊急通

報システム設置の際、近所の方に見守りと協力を求めるために、ある程度の情報が提供されています。

少し心配される行動があったて親族に連絡すると、すぐに施設に入所されたということがありました。情報の提供には本人、親族の同意があり、親族からも何かあったら連絡をして欲しいと言われていたこととあり、この情報あったこととあります。

新年度、組織改革があり担当も変わりますが、ぜひとも福祉部門とも連携を取り合っ、防災のみならず福祉的な見守り、また、防犯にも役立つような組織であってほしいと思います。情報提供等について思いがあれば答弁をいただきたいと思っております。

A 自然災害が発生した時の対応として、一人ひとりがどのような条件下にあるのかということが正しい情報としてみんなで共有出来るような形を作っていくことが一番の根っこになってくる部

分だろうと思っております。

災害が発生した時は、自身は自分で守るというのが基本だということを据えないと難しいと思います。自分の状況は、このような状況なのだということを知つても、町内の方々を知つても、うことによつて迅速な対応策が講じられることに繋がっていくと思っております。行政の支援とか、あるいは消防の方々の応援だとかいろいろなことが具体的な形で整理されていくと思っております。

今は、そのような事態が発生した時に、町の職員ももちろんであります。消防団の人達が一諸になつて地域を被災から救おうというような行動になつていくわけでありませんが、これが全町の状況になつた時にどこまで応援しきれぬのかという問題があります。やはり正しい情報を皆で共有することが出来るか、なかなか難しい問題があります。それを共有できるような社会をつくっていくかなければならないと思っております。



▲デジタル防災行政無線

▼戸別受信機





阿部光久議員

合同納骨堂、合葬墓の建設について

町長 時間をかけて皆で検討していく

Q ライフスタイルの変化によって、大家族の中で生まれ育ち、生まれた地域で一生を終えるのが普通という形から、現在では稀有な形になってきました。先祖代々の墓を守るのは、住んでいる私たちの使命でしたが、昨今では少子化や核家族化になり、お墓を継ぐ人がいない、残された家族に負担をかけたくない、家族が遠隔地に出てしま

い、供養が困難である等々の理由で墓じまいをする人が増えています。生前の宗旨、宗教、宗派を問わず、誰もが故郷を安住の地として眠ることのできる合同納骨堂あるいは合葬墓設置の要望が多く聞かれます。近隣市町でも設置が進んでいるようであり、町長の考えを伺います。

A ライフスタイルの変化や遠隔地への転出によって、お墓の管理が困難になってきている状況は理解できます。現在町内には9カ所の墓地があるわけですが、使用許可件数は約1500件で、

それぞれ地域で大切に管理されています。そこで、墓地の返還件数がありますが、平成29年度では、合計12件でありまして、近年は平均して10件ほどの返還があるようです。そのほとんどが返還申請者の居住先に埋葬あるいは改葬している状況になっております。返還届出の際に、合葬墓の問い合わせも数件あるように聞いておりますが、それなり的人数があることは認識しておりますし、慣れ親しんだ土地に眠らせてあげたいというお気持ちも理解できます。しかし、実際にどれだけの利用件数があるのか、埋葬方式にしても骨壺での埋葬か、または直接埋葬するのか、建設費用、規模等の課題があると思えます。小さい町にとって需要のバランス、あるいは神社等への影響というものを見極めていく必要があるだろうと思います。今すぐに建立する考え方はありませんけれども、時間をかけて皆で検討していくこともよろしいかなと思っております。

公共施設における階段・スロープ等に手摺りの設置を

町長 新年度において

効果的な改修を検討したい

Q 普段何気なく使っている公共施設の階段やスロープも障がいを持つ方にとりまして、非常に悩ましいものもあります。また各公民館、住民センターも、この程の地域巡回バスの運行条例制定と共に運行ルートに組み込まれ、乗降場となりますことから、高齢者の利用増加が予想されるところであります。各公共施設に手摺りを設置することで、より安全に利用していただくと考えますが、町長にお伺いをいたします。

私も重要であると認識をしているところであります。

さて、ご質問の中央公民館の玄関周りでありまして、中央公民館は新年度において地域巡回バスの運行ルートとなり、利用者の待合所としての利用増加も予想されることから、施設改修の予算の中でピロティ中央の階段部分への手摺りの設置を行いたいと思っております。玄関の滑り防止対策を含めて建物の効果的な改修を検討したいと思えます。

A 生活様式の変化あるいは高齢化社会の到来、そして障がいを持つ方々からも自由なく社会生活やあるいは社会参加ができる社会、いわゆるノーバリエーションは、社会あるいは福祉環境の整備、そして実現の観点か

▼中央公民館の階段とスロープ



委員会の活動状況

平成30年1月下旬から
平成30年4月中旬まで

議会運営委員会

- 【1月29日】
▽第1回置戸町議会臨時会の運営等について
- 【2月23日】
▽議員協議会の開催依頼について
(町長提案)
- 【2月27日】
▽第2回置戸町議会定例会の運営等について
- 【3月7日】
▽第2回置戸町議会定例会の追加議案について

総務常任委員会

- 【1月29日】
▽置戸町簡易水道事業給水条例の一部改正について

- 【付託事件】
▽置戸町下水道条例の一部改正について(付託事件)
- ▽置戸町農業集落排水施設設置及び管理に関する条例の一部改正について(付託事件)
- 【2月1日】(付託事件)
▽置戸町簡易水道事業給水条例の一部改正について(付託事件)
- ▽置戸町下水道条例の一部改正について(付託事件)
- ▽置戸町農業集落排水施設設置及び管理に関する条例の一部改正について(付託事件)
- 【2月23日】(付託事件)
▽置戸町簡易水道事業給水条例の一部改正について(付託事件)
- ▽置戸町下水道条例の一部改正について(付託事件)
- ▽置戸町農業集落排水施設設置及び管理に関する条例の一部改正について(付託事件)
- 【3月13日】(付託事件)
▽平成30年度総務常任委員会所管事務調査計画について

議員協議会

- 【4月13日】
▽平成30年度総務常任委員会所管事務調査計画について
- 【1月29日】
▽第1回置戸町議会臨時会の運営について
- 【2月23日】
▽置戸町地域巡回バス運行条例について
- ▽置戸町森と住まいの支援条例について
- ▽高齢者保健福祉計画・第7期介護保険事業計画について
- ▽置戸町指定居宅介護支援等の事業の人員及び運営に関する基準等を定める条例について
- 【3月7日】
▽第14次置戸町有林森林経営計画について
- ▽置戸町林業・林産業機械導入促進事業及び置戸町林業担い手確保・通年雇用支援事業創設について
- 【3月13日】
▽第2回置戸町議会定例会の運営について

議会活性化委員会

- 【1月29日】
▽議会懇談会について
- 【2月1日】
▽議会懇談会について
- 【2月14日～17日】
▽議会懇談会

議員定数に関する特別委員会

- 【1月29日】
▽議員定数について
- 【2月1日】
▽議員定数について
- 【3月12日】
▽議員定数について
- 【4月13日】
▽議員定数について

議会広報特別委員会

- 【4月4日】
▽議会広報第185号のクリニックと第186号の編集について

※議会だより本紙の一般質問の掲載順序について、紙面の関係上、通告順とならなかったことをご了承願います。

あ と が き



あとがきには編集の苦労や思いを唯一書けるところと聞いたことがあります。17年弱議会広報に携わり、その間広報に対するご意見は皆無だった気がします。議会や議員が何をやっているのかわからない」という声を聴くと、広報の役割からすると、とても残念に思いますし、ネット社会とはいえ、まだまだ紙面の広報の必要性を感じています。おそろく私の今期最後のあとがきですが、時間と税金をかけた全戸配布の議会広報です。議会が行政の監視をするのが1つの仕事ならば、議会を監視する町民のお役に立てるものをと編集、発行していきます。町の広報もそうですが、いかに目に触れ、読んでいただくか悩みはつきませんが、ご意見をお待ちしています。

(石井伸一)